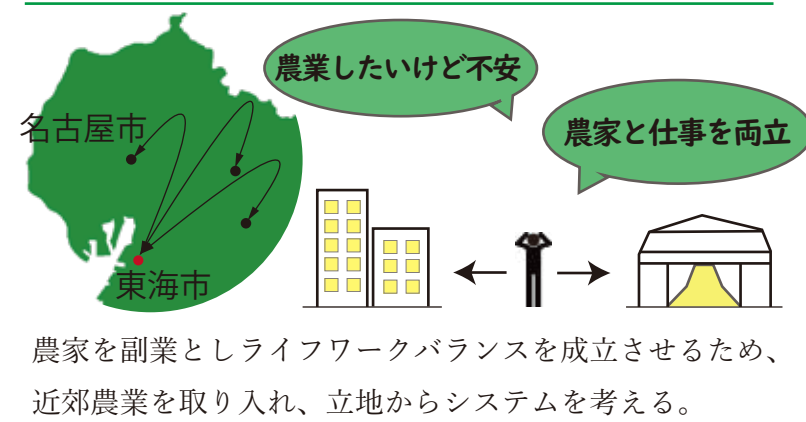


ふき 道の路を歩もう

今回は、近郊農業として東海市で日本一の生産量を誇るふきに着目した。
問題点として、農家減少が顕著になっているが農家に転職するハードルは以前として高く、**副業として農家を営む期間の必要性**を感じた。そこで、**農業を含めたライフワークバランスを調節する建築を提案する。**

1/250

1. 背景 - 農家に転職するハードルの高さ

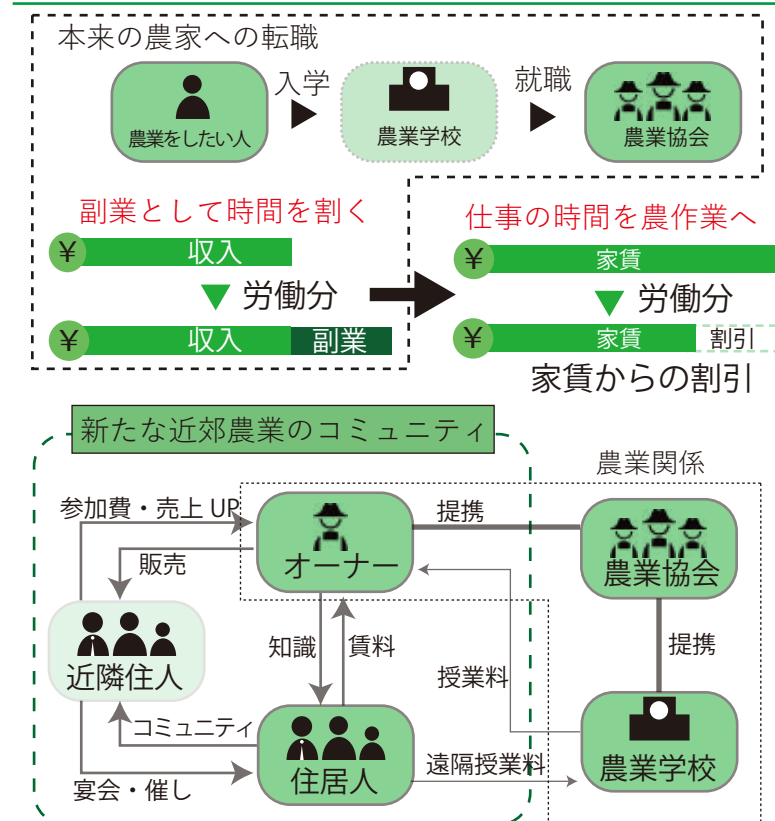


農家を副業としてライフワークバランスを成立させるため、近郊農業を取り入れ、立地からシステムを考える。



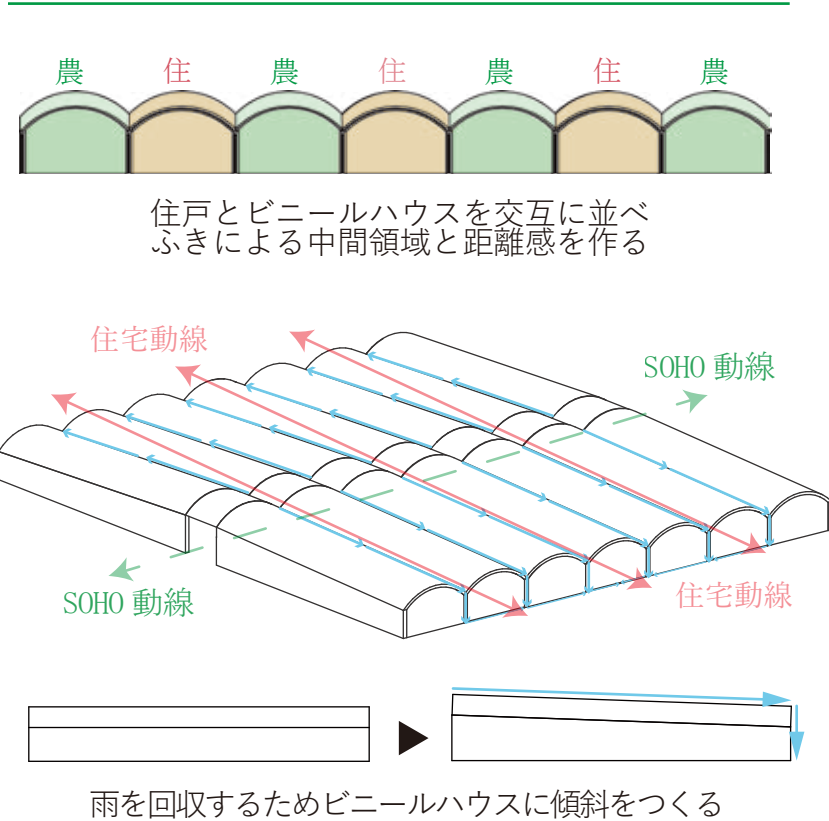
ふきは、3年間を通して1m近くまで高くなることがわかっていて、ふきの生態から設計を考える。

2. プログラム - 転職のリスクを減らすシステム



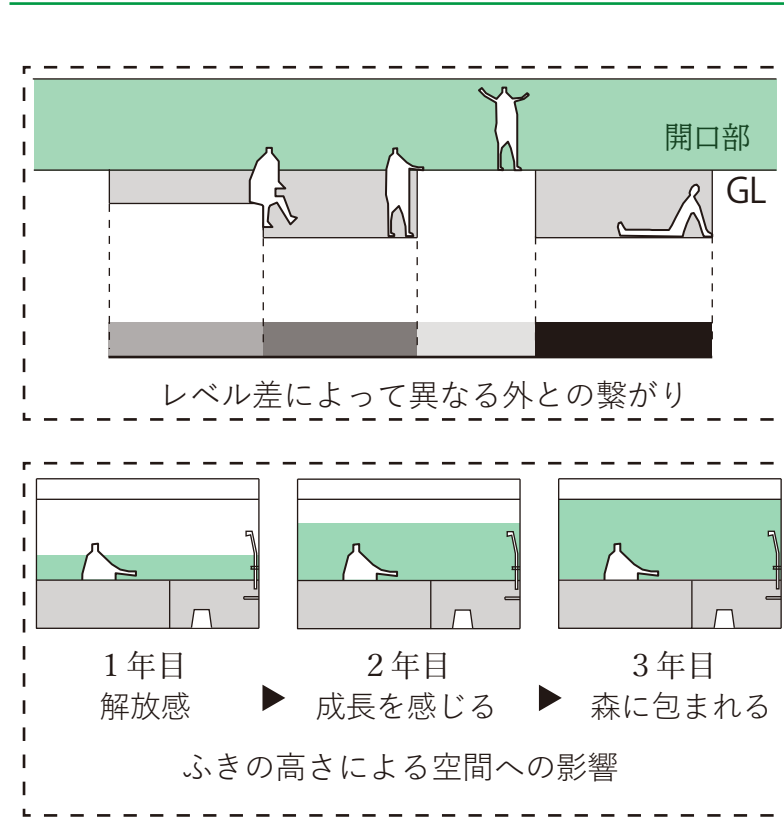
ふき農家であるオーナーが住戸人にノウハウを伝えながら**住む集合住宅**。労働分が家賃から引かれるシステムでライフワークバランスを調節することを可能とし、さらに近隣住人とのコミュニティによるオーナーの利益も考えられる。

3. 構造 - 地域と新たなネットワークを形成する SOHO 動線

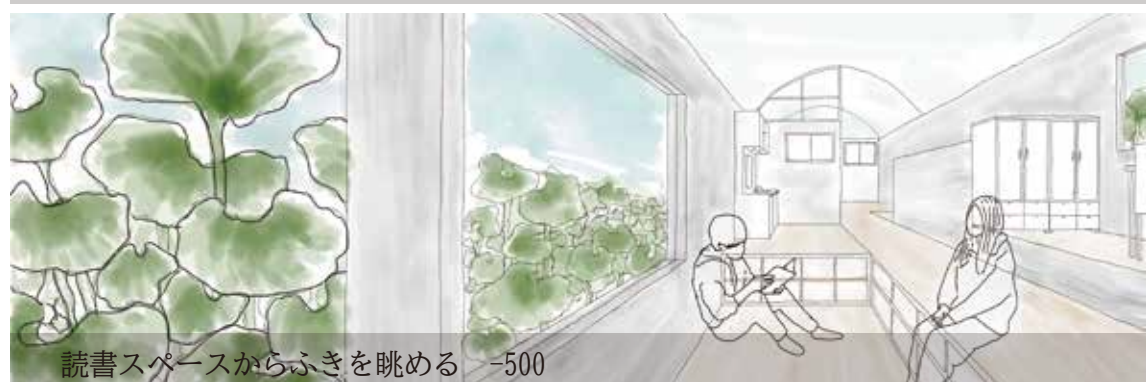
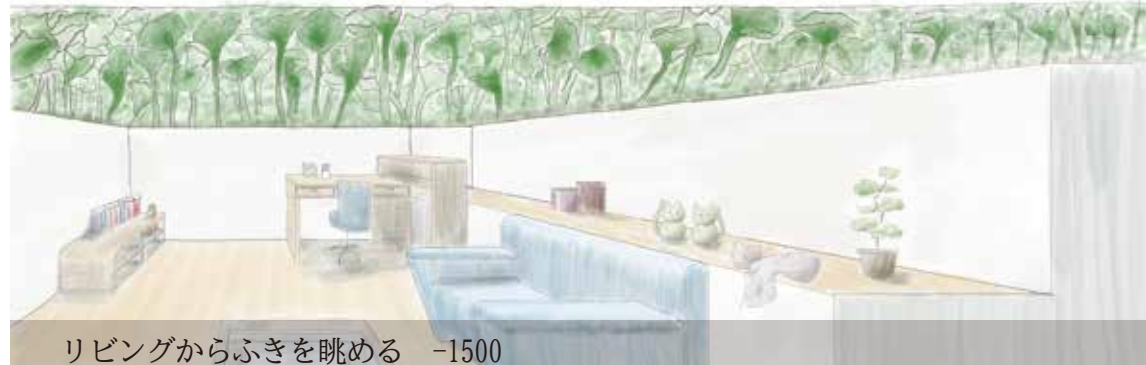
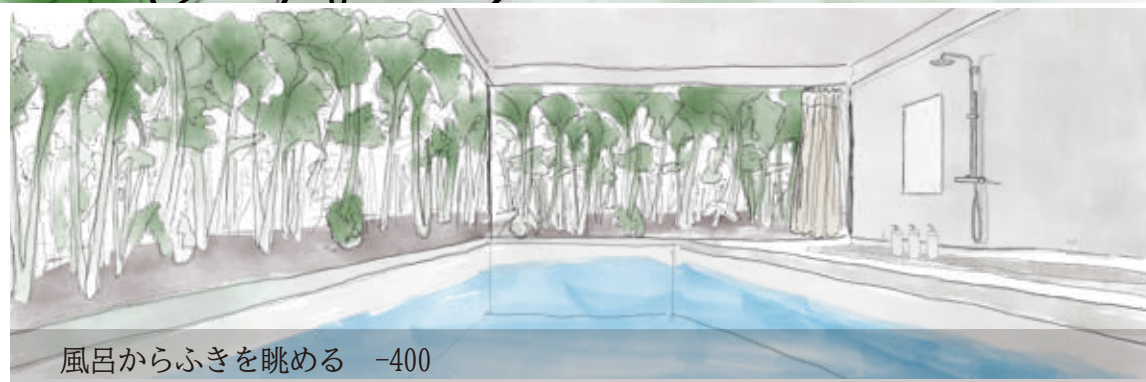


ビニールハウスの規格を利用した住居空間を考える。構造をビニールと鉄骨造の二種類に分けることにより、**農業空間 × 住居空間 × SOHO 空間**という新しいライフスタイルの可能性を見出す。

4. 設計手法 - ふきの高さを生かした断面操作と空間



奥行のあるビニールハウスの構造を生かし、**レベル差によって空間を仕切る**ことで、外のふき畑との関わり方が変わる。また、3年間でふきの高さが変わるため空間に様々な色を与える。



5. 立面図 - 昼と夜で姿を変える SOHO 空間

